



Cisco Elastic Services Controller マイクロサービスに関するトラブルシューティング

マイクロサービス ソフトウェア アーキテクチャに基づいて設計されている ESC は、マイクロサービス ソフトウェア アーキテクチャに統合された多くのコンポーネントやアプリケーションを備えており、ベンダーに依存しない、カスタマイズ可能でプログラム可能なプラットフォームを提供します。

- [Cisco Elastic Services Controller マイクロサービスの概要 \(1 ページ\)](#)
- [Cisco Elastic Services Controller ステータスが正常ではない \(2 ページ\)](#)

Cisco Elastic Services Controller マイクロサービスの概要

ESC は、ベンダーにさまざまなサービスを提供するマイクロサービス ソフトウェア アーキテクチャに基づいています。すべてのマイクロサービスが正常な状態で実行されていることを確認します。ESC のマイクロサービスの正常性状態とサービス全体のステータスを確認する方法は次のとおりです。

ESC の全体的なステータスを確認するには、ESC VM または ESC HA のアクティブな VM で次のコマンドを実行します。

出力の 1 行目には ESC サービスの全体的なステータスが示され、後続の行には各マイクロサービスまたはコンポーネントのステータスが示されます。

```
# escadm status --v
0 ESC status=0 ESC HA Master Healthy
vimmanager (pgid 6432) is running
monitor (pgid 6450) is running
mona (pgid 6529) is running
drbd (pgid 0) is master
confd (pgid 6656) is running
keepalived (pgid 1374) is running
pgsql (pgid 6760) is running
filesystem (pgid 0) is running
snmp (pgid 6598) is running
escmanager (pgid 6924) is running
```

Cisco Elastic Services Controller ステータスが正常ではない

問題：

一部のシナリオでは、ESC ステータスを確認すると、ESC 正常性ステータスの出力に、ESC のステータスが重大なエラーステータスであり、ESC のコンポーネントまたはマイクロサービスの 1 つまたは複数が停止/デッド状態または未実行状態になっていることが表示されます。次に例を示します。

```
# escadm status --v
2 ESC status=0 ESC HA Master Critical
vimmanager (pgid 6432) is running
monitor (pgid 6450) is running
mona is stopped
drbd (pgid 0) is master
confd (pgid 6656) is running
keepalived (pgid 1374) is running
pgsql (pgid 6760) is running
filesystem (pgid 0) is running
snmp (pgid 6598) is running
escmanager (pgid 6924) is running
```

ソリューション：

次のアクションを実行して、ESC サービスを回復します。

- ESC サービスの再起動

以下のコマンドを使用して、スタンドアロン ESC で ESC サービスを再起動します。

ESC 2.X の場合：

```
$ sudo service esc_service stop
$ sudo service esc_service status (make sure ESC service is stopped)
$ sudo service esc_service start
```

ESC 3.X 以降のリリースの場合：

```
$ sudo escadm stop
$ sudo escadm status (make sure ESC service is stopped)
$ sudo escadm start
```

ESC HA の場合、以下のコマンドを実行して ESC サービスを再起動します。

ESC 2.X の場合：

```
$ sudo service keepalived stop
$ sudo service keepalived status (make sure ESC service is stopped)
$ sudo service keepalived start
```

ESC 3.X 以降のリリースの場合：

```
$ sudo escadm stop
$ sudo escadm status (make sure ESC service is stopped)
$ sudo escadm start
```

ESC サービスを再起動すると、ESC HA フェールオーバーがトリガーされることに注意してください。前述のコマンドを実行後、バックアップ VM が HA マスターノードとして実

行状態に切り替わります。スイッチオーバーをトリガーしない場合は、以下で説明する 2 つの追加手順を実行する必要があります。



- (注) ESC サービスを再起動すると、ESC HA フェールオーバーがトリガーされます。前述のコマンドを実行すると、バックアップ VM が切り替わり、HA のアクティブな VM として実行が開始されます。

スイッチオーバーをトリガーしない場合は、次の手順を実行します。

アクティブな VM でサービス再起動コマンドを実行する前に、まずバックアップ VM にログインして、以下のコマンドを実行します。

ESC 2.X の場合：

```
$ sudo service keepalived stop
$ sudo service keepalived status (make sure ESC service is stopped)
```

ESC 3.X 以降のリリースの場合：

```
$ sudo escadm stop
$ sudo escadm status (make sure ESC service is stopped)
```

アクティブな VM で ESC サービスを再起動したら、バックアップ VM に再度ログインして、以下のコマンドを実行します。

ESC 2.X の場合：

```
$ sudo service keepalived start
```

ESC 3.X 以降のリリースの場合：

```
$ sudo escadm start
```

- ESC VM の再起動

ESC サービスを再起動しても解決しない場合は、以下のコマンドを実行して ESC VM を再起動します。

```
$ sudo reboot
```



- (注) ESC のアクティブな VM を再起動すると、ESC HA スwitchオーバーがトリガーされます。バックアップ VM が新しいアクティブな VM になり、すべてのサービスが開始されます。

- ESC の起動ログを確認します。

ESC サービスが起動時に引き続きスタックする場合は、ESC ログを確認して詳細を調べます。以下のログファイルを確認する必要があります。

- `/var/log/esc/escadm.log`：問題を引き起こしているマイクロサービスを確認するための ESC サービスの開始/停止ログ。

- `/var/log/esc/escmanager.log` : ESCManager サービスの起動/停止に関する ESCManager のログ。
- `/var/log/messages` : OS メッセージログファイルには、システムレベルでの致命的な起動エラーも含まれています。

問題が見つからない場合は、ESC ログを収集し、ESC VM (HA 内の 2 つの VM) のログファイルをテクニカルサポートチームに送信します。ログを収集するには、次のコマンドを使用します。

```
$ sudo escadm log collect
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。